

SCHEDULE

	歴史展示室	常設展示室 1	常設展示室 2	常設展示室 3	常設展示室 4・5	特別展示室
4月	かがわ今昔 香川の歴史と文化	書の世界 4/3	モノクローム 4/5	生涯と実績 弘法大師空海の 生涯と実績	現代書・美の競演 4/1	4/8 第1会場 極・写実 一ホキ美術館 ベストセレクション 5/17
5月		第2会場 江戸写実の 精華 5/17	第3会場 写実と美術 5/17		5/23	
6月		高松藩の 参勤交代 5/22	20世紀の 美術— 西欧美術 5/19		香川ゆかりの 作家たち 5/23	
7月		7/12	7/12		7/12	
		7/18 夏休み子ども ミュージアム 観光地・屋島 9/27	7/18 夏休み子ども ミュージアム 20世紀のびじゅつ 8/30		7/18 昭和の暮らしを ふり返る 11/1	

2026春のスペシャル企画「この春、リアルに染まる」関連イベント

トークイベント **要観覧券**

- オープニングトーク**
展示会の開幕を記念して、ホキ美術館 保木博子館長をお招きし、一緒に展示室をめぐるながらお話をうかがいます。
日 時：4月8日(水)11:00～(30分程度)
- 作家によるギャラリートーク**
出品作家の生島浩氏・石黒賢一郎氏が、展示室で自身の作品についてお話しします。
日 時：①4月11日(土)生島浩氏
②5月2日(土)石黒賢一郎氏
各日2回 11:00～、14:00～(各回30～40分程度)

ナイトミュージアム

特別展会期中の以下の期間は開館時間を20時まで延長します。
(入館は19時30分まで)
日 程：4月29日(水・祝)～5月6日(水・休)

- ナイトコンサート** **無料・当日受付(整理券配布)**
春の宵のひとつを音楽とともに過ごしませんか。
会 場：1階図書コーナー
定 員：各回70名(先着)

- ①「春奏でるフルーツ」
日 程：5月1日(金)
奏 者：北島由美氏(フルート)・中尾麻沙也氏(ピアノ/電子鍵盤)
愛染千絵子氏(舞踊/歌唱)
時 間：18:30～19:20(整理券配布17:30～、開場18:00)
- ②「春薫るサマカイト」
日 程：5月2日(土)
奏 者：臼杵美智代氏(サマカイト)
長田順子氏(ピアノ)
時 間：18:00～18:50
(整理券配布17:00～、開場17:30)



- 写実deナイトトーク** **要観覧券**
特別展および連携企画について、担当職員が展示室にて見どころをお話しします。
第1会場 極・写実—ホキ美術館ベストセレクション 5月3日(日・祝)、5月4日(月・祝)
第2会場 江戸写実の精華 4月29日(水・祝)、5月6日(水・休)
第3会場 写実と美術 4月30日(木)、5月5日(火・祝)
時間はいずれも18:30～(各回30分程度)

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
https://www.kmuseum.pref.kagawa.lg.jp



瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html



香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/bunkakaikan/kfvm.html

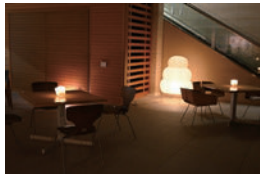


3. イサム・ノグチ「AKARI」ライトアップ **無料**

イサム・ノグチの光の彫刻「AKARI」を特別点灯します。
会 場：1階図書コーナー
点灯時間：17:30～20:00

4. ミュージアム・ナイト・バー **有料**

4日間限定で飲み物などをご提供します。
日 時：4月30日(木)～5月3日(日・祝)
16:00～19:30(オーダーストップ)
会 場：1階エントランスホール



イベント **無料・当日受付**

ゴールデン・ウィーク・スペシャル
「みんなでふらっとデッサン」「博物図譜めりえ」のワークショップを開催。
どなたでもお気軽にご参加いただけます。
日 時：5月4日(月・祝)～6日(水・休)
各日10:00～12:00、13:00～16:00
会 場：2階西口ビー

学芸講座 **無料・要事前申込**

「高松藩の博物図譜」
高松松平家に伝来する博物図譜は、繊細な線や濃密な色彩のほか、切り貼りや箔の使用といった表現が特徴的です。精密な描写に注目し、時代背景を踏まえながら、その魅力や謎に迫ります。
日 時：4月26日(日) 13:30～15:00
講 師：奥田ひかり(当館学芸員)
会 場：地下1階研修室
定 員：72名
申込期間：3月21日(土)～
申込方法：当館新ウェブサイトの申込フォームまたは電話

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント **無料**

- 地域の伝統文化・技術等の調査記録・発信事業** **当日受付**
「Let's Ride on a Tiger! 強く、たくましくなあれ」
端午の節供(5月5日)や八朔(旧暦8月1日)に張子虎などを飾り、子どもの健やかな成長を祈る風習があります。瀬戸内海歴史民俗資料館が実施する職人の調査事業に関連し、お子様を張子虎に乗せて写真撮影できるコーナーを設けます。他にも子どもが楽しめる企画あり!
日 時：5月5日(火・祝)・6日(水・休)10:00～15:00
会 場：瀬戸内海歴史民俗資料館 中央ホール
- 瀬戸内ギャラリー第20回企画展**
「男木島 民の道具と声 一島で紡がれた暮らしの記憶」
※協力 NPO法人男木島生活研究所
2014年の瀬戸内国際芸術祭を契機に、休校になっていた学校が再開された男木島。島民の高齢化が進む一方、近年若者や子育て世代の移住が進んでいます。「男木島のアイデンティティって何だろう」。それを知り次の世代に伝えるために、当館が収集してきた民俗資料や島民の話などから島の暮らしを紐解きます。
日 時：7月4日(土)～8月30日(日)
会 場：瀬戸内海歴史民俗資料館 瀬戸内ギャラリー
※詳細については今後お知らせする予定です。瀬戸内海歴史民俗資料館ウェブサイトをご覧ください。



カフェット ミュゼ
くつろぎのひとつに、カフェット ミュゼをご利用ください。特別展関連メニューもご用意しております。
営業時間：9:00～17:00
夜間開館日は9:00～20:00
ミュージアム・ナイト・バー開催日は9:00～15:00
(いずれも30分前オーダーストップ)



ミュージアムショップ
1階ミュージアムショップでは当館オリジナルグッズほか、特別展会期中はホキ美術館関連グッズも取り揃えています。
営業時間：9:00～17:00
夜間開館日は9:00～20:00

NEWS
THE KAGAWA MUSEUM



CONTENTS

特集

特別展 **極・写実 一ホキ美術館ベストセレクション**

島村信之「夢の箱」

2017年 162.1×227.3cm キャンバス・油彩
ホキ美術館蔵

特別展連携企画 常設展 江戸写実の精華—高松藩の博物図譜

アート・コレクション 写実と美術

トピック 新・公式サイト

「名品選」ってなに?

調査研究ノート vol.51 田中岑は何を描いたのか

れきみんだより 張子虎の田井民芸を訪ねて

「夢の箱」は一見すると標本箱の写真のようだが、非常に大きな油彩画の作品。日本のクワガタの約半数の種類が極めて精密に描写されており、作者自身が飼育から標本まで手がけるほど、昆虫への深い愛情を注いで制作されている。昆虫特有の艶や細かな毛一本に至るまで、生命への尊敬と美へのこだわりが込められている。

特集

2026春のスペシャル企画「この春、リアルに染まる」

特別展「極・写実—ホキ美術館ベストセレクション」にあわせ、「写実」をテーマに館内2会場で連携企画展示も行います。この春、感動と驚きに満ちた写実の世界を、心ゆくまで堪能ください。

第1会場 特別展示室、常設展示室4・5

特別展「極・写実—ホキ美術館ベストセレクション」

本展は香川県で初めて開催するホキ美術館コレクション展です。“写実絵画の殿堂”と呼ばれる同館所蔵の作品から厳選し、高い人気を誇る野田弘志や森本草介といった作家をはじめ、同館を代表する作家や瑞々しい感性で現代をとらえる中堅・若手作家など、計27名の人気作品64点を一堂に展示します。対象を深く見詰め、その本質を描き出そうとした作家の思考やまなざしに触れ、写実絵画の極みを間近でご覧ください。

第1章 静かなる気配

静物画は、果物や花、器物など身近なものを題材とした絵画で、17世紀のオランダで独立したジャンルとして確立し、発展してきました。静物画の魅力は、何気ない日常の品々を題材としながら、作家の視点や感性によって新たな美が引き出される点にあります。本章では、丁寧な描写から生まれる静かな緊張感と気配に満ちた世界をお楽しみください。



1



2

第3章 人物への探求

人物画は、古代から現代に至るまで、宗教画や肖像画をはじめとする多様な表現の中で発展してきました。人物は最も身近で親しみやすく、誰もが自然と興味を持つテーマです。表情や佇まい、視線などから伝わる人間の奥深さは、複雑で飽きることのない魅力にあふれています。本章では、作家が探求してきた人物描写の多彩なあり方を通じて、人という存在が放つ様々な魅力に触れていただけることでしょう。

第2章 風景への憧れ

風景画は人と自然との関わりを映し出す絵画として広がりを見せました。静物画同様、西欧では、17世紀のオランダで自然そのものを主題とする風景画が確立し、画家たちは身近な景観から雄大な自然まで、多様な風景を描いてきました。風景画は、作家の繊細な観察力と卓越した技法によって、まるでその場にいるかのような臨場感と空気感を伝えてくれます。本章では、自然を見つめる作家のまなざしと、風景に託された憧れや感情が響きあう作品を紹介します。



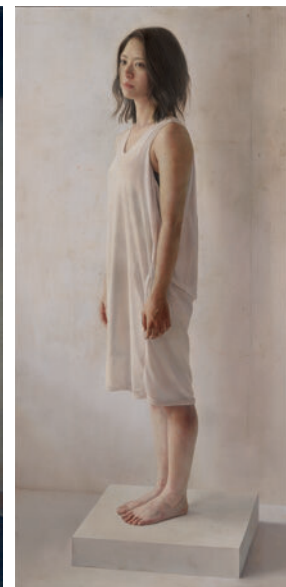
3



4



5



6

第4章 光に魅せられて

光は絵画の中で、形や色をそっと浮かび上がらせ、空間に静かな奥行きと時間の気配をもたらします。木々の隙間から差し込む柔らかな光、光によって生み出される影の深み、反射による微妙な色の変化は、作家の鋭い観察眼と高度な技術によって描き分けられてきました。本章では、光を表現の要とする作品を通して、写実絵画における光の多様な表情を紹介します。



7



8

第5章 物語を紡いで

描かれた人物の表情や仕草、ドラマチックな風景など、作家によって選び抜かれたモチーフは、見る者の想像を静かに誘います。本章では、作品と向き合うことで、鑑賞者それぞれの中に物語が立ち上がるような作品を紹介します。画面の中に漂う気配や余白に身をゆだねながら、心の中に物語を紡いでみてください。

(専門職員 岡本 由貴子)



9



10

ホキ美術館とは

ホキ美術館は千葉市緑区に2010年に開館した、世界でもまれな写実絵画専門美術館です。現代写実絵画の作品を中心に約500点を所蔵し、常時約120点の作品を展示しています。館内では第一線で活躍する作家の代表作や新作が並び、アートの感動や驚きを体験できる場となっています。

建物は3層に渡って積層された回廊状のギャラリーが特徴的で、2011年度に日本建築大賞を受賞しています。芸術と空間が調和した非日常のひとつときを楽しめる美術館として、多くの美術愛好家に親しまれています。



展覧会情報

【第1会場】

極・写実

—ホキ美術館ベストセレクション

会期：4月8日(水)～5月17日(日)(会期中無休)
会場：特別展示室・常設展示室4・5

(連携企画【第2会場】「江戸写実の精華—高松藩の博物図譜」、【第3会場】「アート・コレクション 写実と美術」)

開館時間：9:00～17:00

※夜間開館 20:00まで

4月29日(水・祝)～5月6日(水・休)

(いずれも入館は閉館の30分前まで)

観覧料：1,300円、前売・団体(20名以上)1,000円
高校生以下、県内在住の65歳以上、障害者手帳・特定医療費(指定難病)受給者証・小児慢性特定疾病医療費受給者証等の提示者とその介護者の方は無料

- 1 青木敏郎「白デルフトと染付の焼物の静物」2012年
- 2 安彦文平「収穫の喜び」2009年
- 3 野田弘志「オロフレ峠」2010年
- 4 森本草介「田園」2001年
- 5 生島浩「5:55」2007～2010年
- 6 藤田貴也「台の上に立つ人物」2020年
- 7 五味文彦「いにしへの王は語る」2018年
- 8 藤原秀一「萩と猫」2009年
- 9 石黒賢一郎「ガスマスクを被らなければならない」2015年
- 10 大矢英雄「まどろみ醒める午後」2009年

特別展連携企画

第2会場 常設展示室1

江戸写実の精華 —高松藩の博物図譜

4/8(水)~5/17(日)

(前期:4/8(水)~4/27(月) 後期:4/28(火)~5/17(日))

高松松平家には、魚・鳥・植物を精密に描いた博物図譜が伝わります。博物図譜は高松藩5代藩主・松平頼恭の命により制作が始まったと考えられており、博物学が盛んになる18世紀以降に成立しました。頼恭の事績を記した「増補穆公遺事」には、魚図は世に比類のないほど精密であったため、10代將軍家治に献上したと記録されています。現存する「衆鱗図」を見ても、魚の表面に銀箔を使用する点、それぞれを輪郭線で切り取って台紙に貼り付ける点など、非常に手の込んだ作りといえます。

今回の展示では、「衆鱗図」のほか「衆禽画譜」「衆芳画譜」「写生画帖」の計4種類の博物図譜を展示します。江戸時代の人びとが自然をどのように描きとったのか、写実の世界をお楽しみください。

(学芸員 奥田 ひかり)

ミュージアム・トーク:4/19(日)13:30~、5/9(土)14:00~(各回30分程度)



香川県指定有形文化財「高松松平家博物図譜」のうち「衆鱗図」まながつうを(上、前期展示予定)あをべるこ・へるこ・はなしまを(下、後期展示予定)

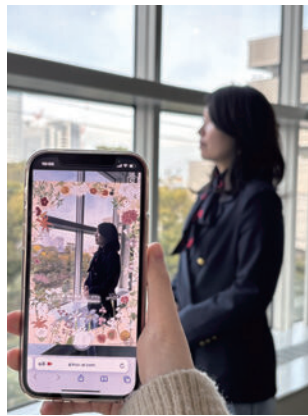
「高松松平家博物図譜」と写真が撮れる！

「高松松平家博物図譜」のさまざまな図柄でデザインしたARコンテンツを設置しました。お手元のスマートフォンなどで、館内に設置された二次元コードを読み込むと撮影ができます。

春の特別展にあわせてお楽しみいただけるのは、葉草や花果を描いた「衆芳画譜」のコンテンツ3種。そのなかには、描かれた植物23図を使用したフォトフレームや、花を出現させて動画で撮影できるものもあります。

令和8年度は「衆鱗図」などからデザインした全7種のARコンテンツを、季節ごとに種類を変えて設置する予定です。館内フリーゾーンにて、ご来館の際にぜひ撮影してみてください。

※画像は準備中のもの



第3会場 常設展示室2 アート・コレクション

写実と美術

4/7(火)~5/17(日)

作品から伝わる音や風、匂いや温度、神々しさ。

香川ゆかりの作家による、現実感・迫真性を伝える彫刻・絵画作品を紹介します。

(主任学芸員 日置 瑤子)

ミュージアム・トーク:4/25(土)14:00~、5/10(日)13:30~(各回30分程度)



白川一郎「静物」昭和17年(1942)、当館蔵

※特別展連携企画はナイトトークも開催します。詳細はインフォメーション(8頁)にて。

Topic
トピック

新・公式ウェブサイト

香川の文化芸術の魅力を伝える新公式サイトが公開



香川県立ミュージアムでは、香川の文化芸術(歴史・美術・民俗)の魅力をより多くの方に届けるためにウェブサイト新設の準備を進め、ついに令和8年3月3日に、新・公式ウェブサイトが公開となりました!

新たな機能として、収蔵品の一部を高画質画像で閲覧できる「名品選」(デジタルアーカイブ)や、開催予定のイベントを検索できるカレンダーが加わりました。また、展示品や展示室の魅力をわかりやすく紹介する「WEBマガジン」といった、読んで楽しめるページも作成しています。

さらに、新しく撮影したデジタル画像や動画を掲載したことで、コレクションや展示室をより魅力的に伝えるサイトに生まれ変わりました。

また、海外の方にも香川の文化芸術を分かりやすく伝えるために、館の案内や名品選などの一部ページは多言語対応としています。日本をはじめ、世界に誇れるローカルな香川の歴史・美術・民俗の魅力を、ウェブサイトを通じてグローバルに発信していきます。

(専門職員 横山 達磨)

URL: <https://www.kmuseum.pref.kagawa.lg.jp>



館内マップ



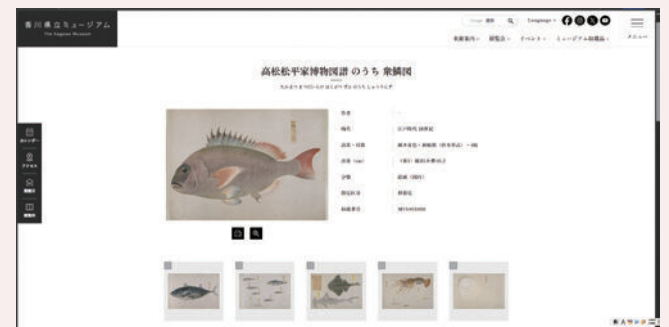
トップページ

「名品選」ってなに?

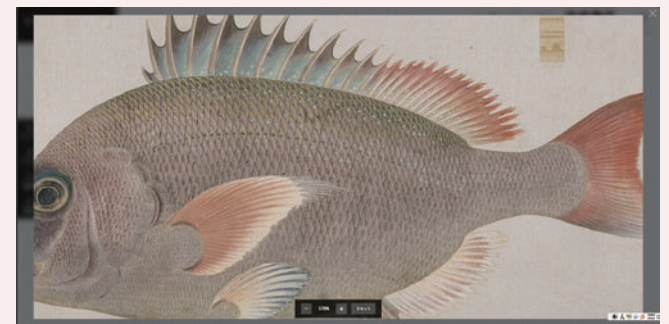
新・公式ウェブサイトの「名品選」では、香川県立ミュージアムが収蔵する資料・作品のうち、国指定の文化財の書跡や絵画、香川ゆかりの美術作品など、館を代表するものを紹介しています。

掲載画像については、細部までじっくり観察していただけるよう、新たにデジタル撮影を行いました。これまでのウェブサイトの「館蔵品データベース」にも画像を掲載していましたが、今回の「名品選」ではさらに画質が向上しました。高画質の画像をウェブサイトで公開することにより、画像を拡大して細部までご覧いただけるだけでなく、展示期間中でない資料・作品をいつでもどこでもお楽しみいただくことができます。

ぜひアクセスしていただき、資料・作品の魅力をご堪能ください。
(主任専門学芸員 高木 敬子)



名品選(デジタルアーカイブ)における「高松松平家博物図譜のうち衆鱗図」



名品選(デジタルアーカイブ)拡大イメージ

※ウェブサイト画面はいつでも準備中のもの

田中岑は何を描いたのか

田中岑(1921~2014)は、現在の観音寺市に生まれ、上京して香川出身の洋画家小林萬吾の画塾に通い、東京美術学校(現東京藝術大学)に入学。母校にあたる観音寺第一高等学校の級帳に作品が使われるなど、香川とつながりをもち続けた洋画家です。安井賞¹を受賞し、後年になるにしたがい幾重にも色を重ねていく作風から「色彩の画家」として知られてきました。

ここでは、戦地から帰国した昭和21年(1946)から安井賞を受賞する昭和32年までの作風の一端を、当館収蔵作品と関連資料から紹介します。当館収蔵作品で、この期間に制作された油彩画は12点。共通項としては、キャンパス上で対角線を結んで幾つかに区分けし、境界線に沿った着彩で色の対比を強調する傾向が見られ、この時代の田中の特徴として指摘できます(参考:図1)。

なかでも「しずかによりしずかに(愛)」(図2、以下、A)は、比較的明度と彩度の高い青色の背景に、白色で三角形に見えるモチーフを並べ、黄色で四角形を、白色で大らかな曲線を表しています。先述の特徴を引継ぎつつ、画面下半分で透明性のある絵具を用いて下層の図像と色を透けさせる表現は、田中の新たな展開を感じさせます。では、作家の意図としては何を描いたものなのでしょうか。手掛かりとなるのは、昭和28年に制作した「静かに、より静かに」(以下、B)です。同年に開催された「抽象(Abstraction)」と「幻想(Surrealism, Fantasy)」から日本の作家を概観する試みである「抽象と幻想:非写実絵画をどう理解するか」展(国立近代美術館(現東京国立近代美術館))でAと作品名の読みが似るBの出品があったことは、他の文献²で記載されていましたが、これまで詳細は明らかではありませんでした。

令和4年度、東京国立近代美術館で同展を回顧する「プレイバック『抽象と幻想』展(1953-1954)」が開催され、その関連



図1



図2



図3

図1 田中岑「ゴッホへの思慕」昭和26年、当館蔵
図2 田中岑「しずかによりしずかに(愛)」昭和28年、当館蔵
図3 田中岑「静かに、より静かに」昭和28年「抽象と幻想」展関連写真 提供:東京国立近代美術館



資料^{3,4}から出品作家・出品作品のモノクロ記録写真・作者の言葉が明らかとなりました。それらによれば、油彩画であるAに対しBがグアッシュで描かれ、Aより一回り以上小さい作品であること、三角形に見えるモチーフが並ぶなどAに近い図像・構図であることがわかりました(図3)。

昭和28年、田中は、日本を代表する美術評論家瀧口修造⁵が展示作家の選考に携わる美術画廊「タケミヤ画廊」で個展を開催。のちに日本を代表する美術評論家となる針生一郎⁶に評価されるなど、注目された時期であることがうかがえます。こうした時期に制作されたBについて田中は次のように述べています。

この絵の発想には、どうも音が、何かはたらいらしい。
ドラクロア(原文ママ)のある絵をみていたら、
どこかで、なにか、音がきこえてきたと。
この絵の発想をかたりたい。⁵

この言葉は、絵画から音をイメージしたことが契機となり制作したことを示すものです。現実の対象を再現して色やかたちの可能性を追求するより、むしろ自らがイメージした音を色やかたちで表現しようとしているととらえられます。「抽象と幻想」展で、田中の作品が「幻想」のカテゴリで展示されていたことに鑑みれば、音から生まれたイメージであることもうなずけます。

(主任学芸員 日置 瑤子)

註1 洋画家安井曾太郎を顕彰し、具象的傾向のある絵画を評価の対象とする賞。
2 佐々木静一編『画家の記憶 田中岑』三彩社、昭和49年。
3 MOMATコレクション小特集『プレイバック「抽象と幻想」展(1953-1954)』東京国立近代美術館、令和4年、XI頁。
4 長名大地「[研究ノート]「抽象と幻想:非写実絵画をどう理解するか」展(1953年)について」『東京国立近代美術館研究紀要』28号、令和4年、61頁。
5 前掲註4。

れきみんだより



張子虎の田井民芸を訪ねて

今も昔も縁起物として親しまれる張子虎。その伝統的な製作技術の継承について、田井民芸(三豊市三野町)を調査した成果から紹介します。

諸職調査とは?

「諸職」とは、いろいろな職業、またはいろいろな業種の職人のことを指します。香川県では、昭和62・63年度(1987・88年度)の2か年にわたり、県下全域150件の諸職を対象として調査を実施し、平成元年(1989)3月に調査報告書『香川県の諸職』を刊行しました。

それから35年以上を経て、瀬戸内海歴史民俗資料館(以下、当館)では令和5年度(2023年度)から地域の伝統文化・技術等の調査記録・発信事業において香川県下の職人の現況調査を行っています。その一環として、『香川県の諸職』で調査対象であった田井民芸を訪問し、作業工程などの記録・調査を進めています。

張子虎と八朔祝い

西讃地域(香川県西部)を中心に、端午の節供(5月5日)や八朔(旧暦8月1日)に男の子の健やかな成長を祈る縁起物として張子虎などを飾る風習があります。虎は「千里を征き、千里を還る」といわれ、その勇猛さにちなんで、男の子の立身出世を祈る親心から節供飾りの一翼を担ってきました。

特に、男の子が生まれて初めての八朔には、妻の実家や親戚などから贈られた首振りの張子虎や団子馬などを床の間に飾り、親戚一同で祝いました。昭和初期からこうした風習は見られますが、昭和50~60年代ごろには、人形作りが盛んな仁尾や三野で大型の張子虎が生み出され、八朔など親戚が集まる機会に子どもを乗せて写真を撮るのが流行しました。

このように地域の人生儀礼に欠かせない張子虎は、江戸時代から続く独自の技法や職人ごとに異なる意匠をもつことも評価され、昭和60年に香川県伝統的工芸品に指定されました。

受け継がれる職人の技

張子虎の作業工程は30以上あるといわれます。主な作業としては、①和紙をちぎりながら木型に貼る、②型ぬきをして目張りする、③胴に足やしっぽ、耳をつける、④胡粉ぬり、⑤色つけ・模様描き、⑥ひげづくりなど仕上げという具合で、だんだんと虎に近づいていきます。

この工程をすべて手作業で行う田井民芸。『香川の諸職』などによると、3代目にあたる田井清巳さん(1915~2006)が、父から受け継いだ技術に工夫と修行を重ねて、年間1,500~3,000頭の虎を生産しました。昭和50~60年代は、八朔の飾り物・出産祝いとして体長70cm~80cm程の首振虎がよく

売れ、より大きな「のれる虎」や「ジャンボ」の製作も始めました。清巳さんの技術は、娘の登巳子さん(4代目)や長男の妻である艶子さん(5代目)に伝わります。

現代の張子づくり

西讃地域でも八朔行事がほとんど無くなった現在では、お土産やインテリア用として体長15cm程の張子が主流になるなど張子虎を取り巻く環境は大きく変化しました。しかし、艶さんと綾静子さん(ともに張子を作る職人)は、先代の技術を受け継ぎながら多くの人に好まれる張子づくりに日々向き合っています。絵付けワークショップを開催したり、和紙のデザインを活かしたものや、コラボ商品に挑戦したりと、年々張子の種類も増え活動の幅を広げられています。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員 岡田 達哉)



「乗用はりこ祝虎」



胡粉ぬり



現代の張子の数々